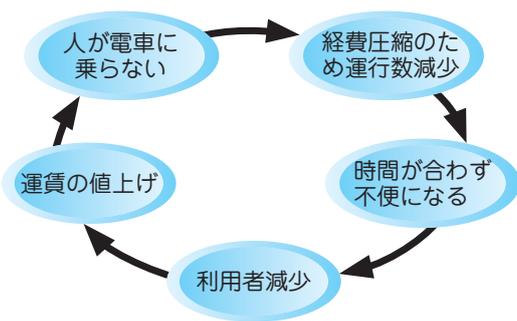


負のスパイラル



(2) 乗客減少から引き起こされる負のスパイラル

■乗客の減少傾向

グラフ1に示すように、本電鉄の輸送人員は、昭和45年度の165万人に対し、現在（平成18年度）は約54万人台になっていす。近年においても減少傾向は続いており、特に定期券利用者以外の落ち込みが大きく、その点からも8割が高校生という状況が浮き彫りになっていす。

■負のスパイラル

人が電車に乗らないという状況からスタートすると、会社は人が乗らない電車の運行を減らします。潜在的に利用者の時間が合わなくなり、利用者が減ります。会社は以前通りの収益を得ようとして、運賃を値上げし、人運賃を値上げすると、人

が電車を使わずに違う交通機関で移動しようとしていす。単純にその繰り返しです。

(3) 電車を取り巻く状況

■安全運行のための「緊急保全整備事業」施設の近代化の必要性の実施

安全運行のための「緊急保全整備事業」については、本電鉄の財政で運営することが難しく、十和田観光鉄道活性化協議会が財政支援をしていす。

■国と地方の財政赤字

自治体の財政状況が厳しくなっている現在、十和田観光鉄道活性化協議会を構成する自治体の支援が続くうちはまだしも、やむなく支援が打ち切られる事態も考えなければなりません。

(4) 電車交通の存在意義と社会的必要性

安全で定時制に優れた交通サービスの提供が電車最大の存在意義です。年齢的に車を使えない交通弱者といわれる高校生や高齢者の交通手段です。道路への負荷を減らすことによつて、交通渋滞の緩和という社会的便益をもたらしていす。また、観光産業をはじめとする地域産業への貢献、駅周辺地域の土地利用価値の増大などの役割も果たしていす。

高校生の年度別交通機関利用状況

単位：人

交通手段等	三本木高校			三沢高校			三本木農業高校			十和田工業高校			三沢商業高校		
	16	17	18	16	17	18	16	17	18	16	17	18	16	17	18
電車（自転車など併用を含む）	102	102	95	137	128	124	164	151	150	130	116	106	91	93	105
自転車	453	434	431	277	263	284	131	161	148	452	495	404	101	85	93
父兄送迎	68	89	125	61	74	121	143	168	208	49	65	98	113	122	94
その他	208	204	179	367	359	276	272	225	167	137	58	70	368	332	292
合計	831	829	830	842	824	805	710	705	673	768	734	678	673	632	584